

「なぜエリスは発狂したのか」

私は「舞姫」の結末を読んだとき、エリスが発狂したという場面で、なんとなく違和感があつた。こんなに簡単に発狂したりするだろうかと疑問に思ったからだ。

そこで私は、エリスが発狂した理由は、豊太郎が日本に帰ると約束してしまったということ以外に、もつとエリスの不安をあおるようなことを相沢が言ったからではないかと考えた。

まず本文には、相沢がエリスに「余が相沢に与えし約束」と「大臣に聞こえ上げし一諾」を伝えたと書いてあるが、それはそのとき気を失っていた豊太郎が後から聞いた話であつて、本当はそれ以外のことも話していた可能性がある。

そうでなければ、豊太郎はエリスの前では、エリスを捨てて日本に帰ったりはしないと云っているのに、エリスは初めて会った相沢の話のほうを簡単に信じてしまったということになり、納得できない。また P291「それもかなはで東に帰りたまはんとらば、親とともに行かんはやすけれど、かほどに多き路用をいくよりか得ん。」「大臣の君に重く用いられたまはば、我が路用の金はともかくもなりなん。」と本文にあるように、豊太郎が日本へ帰るのなら自分も一緒に日本へ行きたいと考えていたエリスが、発狂したりはしないだろう。

私はこれらと、「かくまでに我をば欺きたまひしか」というエリスの言葉を根拠に、相沢はほかにも豊太郎が秘密にしていたことを話してしまったのではないかと思った。そしてその秘密というのが、豊太郎が官を免じられ、職を解かれたことに、エリスが関わっているということだったのではないかと考えた。

「余は彼が身のことに関はりしを包み隠しぬれど」と書いてあるように、豊太郎は免官になったときに、その原因のひとつがエリスであることを黙っていた。一方でエリスは「君はふるさとに頼もしき族なしとのたまへば、この地によき世渡りのたつきあらば、とどまりたまはぬことやはある。」と、日本に帰っても頼りにできる親族もいないので、ドイツで自分と暮らしを立てていくよい手段があれば、豊太郎が日本に帰りはしないだろうと思っていた。

しかし免官の理由がエリスだとすると話は変わってきてしまう。

エリスは、豊太郎がいまさら日本に帰っても、あてにできるものもなく、生活していくにも大変だろうから、ドイツに残ったほうが幸せだろうと思っていたが、エリス自身が免官の理由であるならば、豊太郎はエリスと別れさえすれば、前のような地位や名誉を取り戻して、親族なんかがいなくても、それなりにいい生活が出来るようになるかもしれないのだ。

それに、免官の原因となり、人生を180度変えてしまった女を、本当に心から愛していたのだろ

うかという疑問もうかんできただろう。

こういったことが原因で、エリスの中にあつた「豊太郎にすてられはしないか」というかすかな不安が現実味を増し、相沢の話に信憑性を持たせたに違いない。

以上のことから、エリスが発狂したのは、豊太郎は知らないだけで、相沢が「エリスが免官にかわっている」ということをはなして、エリスの不安をあおってしまったためだと考える。

分からなかったのは、相沢は事実を伝えに來ただけなのか、エリスと豊太郎を別れさせたいという明確な意思があつて話したのかということだ。それによつて相沢の言い方やニュアンスも微妙に違つてくるだろうし、エリスの受け取り方も違ふだろうと思うが、はっきりした根拠がないので分からなかった。